

## ▶ 第4章

# 米中気候協力の行方

## ——バイデンは北京と協力できるのか？

京都大学大学院総合生存学館 准教授

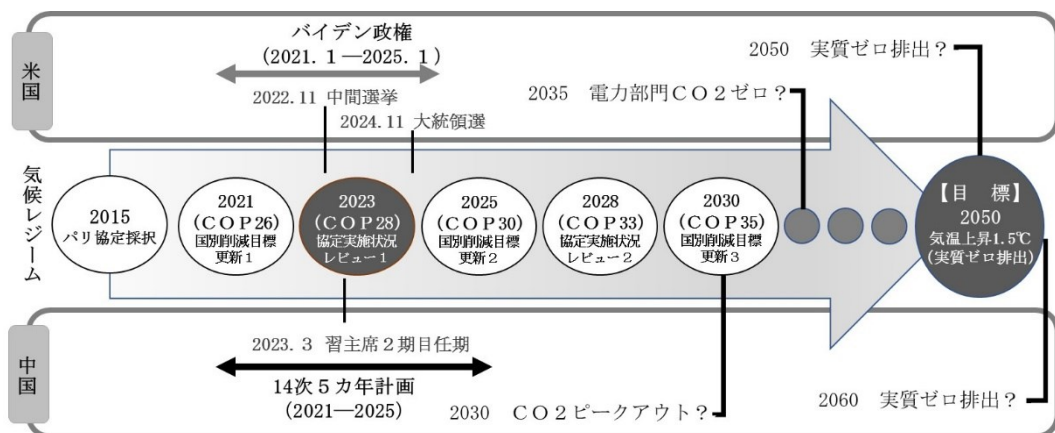
関山 健

### 【ポイント】

- ▶ 米中は、気候変動対策を巡ってすら、協力関係を維持することは容易でない。バイデン政権初期には、首脳合意や協力枠組み再開など表面的な協調姿勢が見られるだろう。しかし、1年、2年と経ち、協力の具体化に話が進むと、互いに相手へ切れるカードはあまりない。2023年の第28回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP28）は、米中気候変動協力が試される場となろう。
- ▶ バイデン大統領は気候変動対策をどこまで具体化できるか。過去30年の米国政権を振り返ると、決して簡単でない。一方の中国は、いまや気候変動対策と気候レジーム外交を積極的に行う立場である。米中が気候変動を巡って主導権争いをする可能性も否定できない。
- ▶ 日本としては、バイデン政権が、人権や通商などに加え、気候変動でも対中強硬姿勢への同調を要求してくるならば厄介だ。不必要に対中関係に懸案を増やす事も、逆に気候レジームで存在感を発揮できない事も避けるため、日米中間の気候変動対話を積極的に進める外交努力を期待したい。



### 気候レジームと米中の予定スケジュール



資料：筆者作成